

## こころ日記

# 「ぼちぼち」

## (3) 思い出のお便り集

脇野 千恵

あと何年この仕事が続けられるのかなと思うと、過去の子どもたちとの生活がなんだかとても懐かしく感じられるこの頃です。思い出はだんだんと薄れていくものですが、子どもたちとの思い出をよみがえらせてくれるのが、毎日書いていた学級通信です。

担任としてできることの一つとして、毎日学級通信を書くこと！と決めていました。一年間で200号近くまで発行しました。

タイトルは色々。

“ぼちぼち”は、実はある年の学級通信につけたものです。中身は毎日のことから、連絡事項、私のつぶやきなどです。書くことは苦痛ではなかったので、自己満足のように取り留めのない時事問題なども盛り込むこともありましたが、紙面のほとんどは、毎日の子どもたちの「三行日記」で占められていました。

ちょっと紹介します。

### 4月8日“入学式”のこと

・入学式はちょっと緊張した。すべてが初めてなのでどうすればいいかわからなかった。

・僕はどきどきしました。なかでも名前を呼ばれて返事をするときに不安でした。でも何とか返事ができました。長い話が続きやっとなりました。すごく疲れしました。

・名前を呼ばれるとき、とても緊張した。式のとくに演奏があつてすごかった。悪い人ばかりいるんだと思っていたけど、けっこうみんな優しくてよかった。

・中学生になつたっていう実感がなくて、なんだか不思議な感じでした。クラスに仲がよかった人がいてよかったです。

・はじめは緊張したけど、どんどん進むうちに緊張がなくなっていった。中学3年間、楽しいことがいっぱいあればいいと思った。

・始まる前すごく緊張していたけど、先生

や先輩たちに歓迎されてほぐされました。  
もう中学生なんだなあと思いました。

#### 授業が始まった4月半ばの三行日記

- ・今日は色々な勉強をした。小学校の時よりむずかしかった。とくに数学がむずかしかった。
- ・今日の授業は説明ばかりで、あまり進まなかった。生徒手帳をもらった。
- ・学校の中で鬼ごっこをしました。先生は、野球はどこファンですか？ぼくは阪神です。

5月、家庭訪問が終わると、子どもたちはもうすっかり学校生活に馴染み、休み時間の使い方もうまくなっていきます。自分らしさを出してくるのもこのころでしょうか。毎日ささいな喧嘩の対応に追われるのもこのころからでした。

ある日の学級活動で聞いてみました。

#### 「このごろむかついたことって何？」

- ・友達としゃべってて、〇〇ちゃんが割り込んできた！
- ・自慢してくる友達。
- ・勉強しなさいといちいち言われること。
- ・お母さんにおこられるとき。
- ・勝手携帯みられるとき。
- ・兄貴にキレられること。
- ・約束守っているのに、親は時間にルーズなところ。
- ・先生に指図されること。
- ・弁当の中がぐちゃぐちゃになってる！  
などなど。

みんなの「このごろむかついたこと！」

#### から思うこと

・みんなそれぞれだなあと。私はストレスがたまると猫とあそびます。すごくかわいくて、いやされます。

・みんな、けっこう思っていることが一緒だった。みんなのを聞いてもっとむかついてきました。みんなのむかつくことが色々わかりました。

・みんなも友達のこととかで悩んでる人がいるんだなと思った。でも友達にいじめられたり、さけられたりするのって、「ムカつく」っていうより、「さみしい」という気持ちの方が多いです。

・みんないっぱい不安なことやむかつくことがあるんだなと思いました。中には人物のイニシャルを書いている人も…。ちょっとかわいそうだなあ。

・ときどき、「何で自分だけ…」って思っていたけど、みんなも一緒やねんなと思った。ストレス発散させることないかなあ。

・なっとくしたやつがたくさんあった。たとえば、ちくられるとか、自己中なやつがうざいとかです。

周りのことが気になって仕方がない子どもたちは、こんなことでちょっと安心した気持ちになったりします。みんな気を遣って生きているんだと思ったものです。

友だちの「ええとこさがし」をしました。

「毎日の君たちを見ていて、自分のことを

ほめてあげられない人がたくさんいますね。” どうせあほやし！ “とか、“何やってもあかんねん！” といった言葉をよく耳にします。班のみんなに自分のよいところを見つけてもらう活動はどうでしたか？」

・ 班の人にええとこさがしてもらって別にいやではなかった。かしこいとか、しきつてくれるとか書いてくれてうれしかった。

・ ちょっと意外なところがあったけど、うれしかった。自分が書いたこと、相手は喜んでくれたかなあ。

・ 自分が思っていたところと、友だちが見ていたところとは違った。自分で自分の良い所はなかなか見つからないが、友だちから聞いて「そうだったのかあー」と思った。

・ 自分は明るい人なんだ！ と思いました。自分のええとこより、悪いとこの方が多いと思っていたので、見つけてくれてうれしいです。

・ 楽しかった。ええとこびみょうやった。

・ みんなが書いてくれたこと、しっくりいかなかった。

・ けっこううれしかった。またこんな授業やってほしい。だって、自分のうれしいこと言われたら気持ちがいいから。

日頃悪態をついていた子も、この時ばかりは、少し緩んだ顔をしていたのを覚えています。「ええとこさがし」といったワーク

シヨップ形式の学習は毎回好評でした。

### 一学期を終えて！

・ 中学校は初めてのことばかりで、慣れないことが多かったけれど、教科の教室の場所を覚えたり、みんなで急いで時間に間に合うように席に着くようにしました。悪い所もいっぱいありました。友だちとしゃべったり、勉強に集中できなったり。本当にもっとまじめに取り組めたらよかった。

・ 4、5月ごろ、まだ慣れずずっとだまっていたけど、6月後半から、めっちゃしゃべるようになった。どの時間も一回はおこられたけど…。楽しいからいいかなと思ったけど、やっぱり授業に集中しようと思う。

・ 「友だちできるかな」「勉強ついていけるかな」とかで、不安でした。でも、友だちいっぱいつけて、他の人とも仲良くなりました。勉強もいいライバルができて熱が入りました。

・ やっぱり明るくて楽しいクラスだなあーって思った。だんだん慣れてきてうるさくなってきたから、2学期が少し心配。でもみんな反省しているから、最高のクラスになると思う。

・ 部活が続けられなかったのが残念に思う。まわりの人が応援してくれていたのに、それにこたえることができなかった…。

・ テストの点が悪かったので、人に言えるくらいの点をとりたいです。あと忘れ物をなくしたいです。

・まだまだみんな子どもだから、うるさいけど、だんだん静かになっていくだろうと思う。先生に迷惑をかけてしまった。

担任を持つと、一年間どんなクラスにしようかなと色々と思ひめぐらします。しかし、その時々の子どもの集団によって、思うようにならないことがたくさん出てくるのが常です。(またそれが面白くもあるのですが)今年こそはと気合を入れても、やっぱり、私なりの学級作りしかできなかったということもありました。

学級作りの一つとしての学級便りは、子どもの気持ちの交流の場として大いに役に立ったと思っています。

担任の思いも一杯綴りました。直に話をしない子にもなんとなく伝わっていったのではないのでしょうか。重大なトラブルのあった日の帰りの会では、読んで聞かせたりしました。

毎日きちんとファイルに綴じていてくれた子どももいます。間違い探しの得意な子は、走ってきて指摘してくれたものです。一方で、道端に落として帰る子には、なんでや!と怒ったりもしました。

親の楽しみでもあったようで、私のプライベートなつぶやきに、いたく感動してくれたということもありました。きっと毎日、自分の子はどんなことを書いたんだろうと、読んでくれていたに違いありません。

その後の子どもたちに、どんなことを残すことができたのか、色々考えます。

これらを書いた子どもたちは、もうすっかり大人になりました。